



▲荻野吟子

酒蔵の仕事は手作業が多く、水仕事や力仕事が多い。初秋から5月連休までが酒造りシーズンで、その間は朝も早く、休みのない大変な仕事です。
「お酒は、その年のお米のでき具合や蔵の気温だったり使う水によって全く違う

毎回表情を変える酒造りの面白さ
は酒造りの最高責任者。その人の技量が酒の出来栄に大きな影響を与えます。今回は女性杜氏として「埼玉県荻野吟子賞」の大賞を受賞した佐藤麻里子さんにお話を伺いました。



▲お酒を仕込む佐藤さん

飲食店の営業時間短縮や外出自粛に伴う巣ごもり需

コロナ禍での変化

味になります。同じように造っても全く同じようにはなりません。夜は2時間おきに様子を見に行きます。センサーやカメラではわからないことが多く、寒がっている時は毛布をかけた、暑がっていたら扇風機をかけたります。まるで泣かない赤ちゃんのようです。手間をかけると表情を変えるのでそれが面白いです。」

今後の展望
「埼玉に清酒越生梅林あり」と県内・県外の方に思ってもらえるお酒を造って

要などの影響で、売上等に変化がありました。
日本ではビールでの乾杯が多く、日本酒は3杯目くらいから飲むイメージ。
飲食店での滞在時間が短くなったことで、日本酒の消費量が減り、売り上げが下がりました。一方で、外出を控え、自宅で晩酌する方が増えたため、SNSで発信したところ、ネットでの注文が増えました。
また、近場で観光する方が増えたためか、お店に来るお客様も関東圏にお住まいの方が多い印象です。先日、黒山三滝を観光した帰りに、地酒を買って帰りました。

いきたいです。
2015年に蔵を一新し、スタッフも若く、また女性スタッフも加わり、日々酒造りを行っているとの事。
「女性が働きやすい環境もそうですが、全員が働きやすい職場を目指しています。蔵の伝統は守りつつ新しいことに挑戦していきたい」と語ってくれました。



▲お店を切り盛りする弟の徳哉さんと麻里子さん

令和3年度 埼玉県荻野吟子賞表彰式

越生町男女共同参画情報紙 ハンドアンドハンド 第36号
ハンドアンドハンドとは…男女共同参画社会の実現を目指し、様々なテーマを紹介します。

▲受賞時の麻里子さんと大野元裕埼玉県知事

荻野吟子賞とは

1月18日、埼玉県は男女共同参画推進に尽力した個人や団体などに贈られる「埼玉県荻野吟子賞」の受賞者を発表しました。県内唯一の女性「杜氏」として活躍する佐藤酒造店の佐藤麻里子さんが大賞に選ばれました。

荻野吟子賞の大賞を受賞

男性も女性も「性別」とらわれることなく、個人としてその個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」。この社会の実現のため、様々な取り組みにより、男女共同参画社会という言葉や考え方は広く浸透してきています。ですが、まだ男女共同参画社会が実現したとは言えないのが現状です。

男女共同参画社会とは

荻野吟子は埼玉県熊谷市出身です。17歳になる年に結婚しましたが、不慮の病に侵されました。この時、男性医師から婦人科の治療を受けたことで、女性医師の必要性を痛感し、医師になることを決意しました。

しかし、当時、女性には医師開業試験の受験が認められておらず制度改正に奔走しました。その努力が実り、日本の女医第一号として医師免許を取得しました。開業後は医療活動に加え、婦人解放運動等の社会的活動にも尽力し、女性の地位向上や衛生知識の普及に大きく貢献しました。その不屈の精神を今に伝える先駆的な活動に対して贈られます。

日本酒をつくる女性杜氏

酒蔵は男社会のイメージが根強い中、県内唯一の女性杜氏の佐藤さん。「杜氏」